

# 三重県護国神社奉賛会報

第九十一号



明治天皇御製(明治三十六年)

老の坂こえぬる子をもをさなしと  
思ふやおやのこころなるらむ

## 御英霊遺徳顕彰祭

### 奉賛会報告

―平成二十七年―  
三重県護国神社奉賛会総会開催

平成二十七年十月二十七日に、「平成二十七年奉賛会総会」が開催された。午後一時からの役員会の後、午後二時より拝殿に於いて「御英霊遺徳顕彰祭」が斎行され、乙部会長を始め役員、会員が参列のもと、御英霊に感謝の誠を捧げた。

祭典終了後、南参集室に於いて総会が開催された。会長の挨拶の後、渡邊理事が議長となり議事が進められ、前年度の事業報告及び決算・本年度の事業計画案及び予算案等議案はすべて異議なく承認された。

終わりに当たり、宮司が挨拶を述べ、総会を終了した。



挨拶を述べる乙部会長

### 終戦七十年臨時大祭

並に秋季慰霊大祭

去る十月二十一日(水)・二十二日(木)の両日にわたり、終戦七十年臨時大祭並に秋季慰霊大祭が斎行された。

乙部会長には、両日とも参列され奉賛会員を代表し玉串を奉りて拝礼された。



玉串を捧げる乙部会長

又、第二日目の祭典の締めくくりには会長の発声により萬歳三唱が行われ、参列者全員声高らかに「萬歳」を奉唱した。

### 鏡餅奉納

当奉賛会では毎年、正月に鏡餅を奉納しています。

本年も当会奉納の鏡餅が正月期間中、御神前にお供えされました。



— 故郷の護國神社と靖國神社 —

# 村 岡 廣 命



埼玉県出身  
大正八年十二月十六日生  
昭和二十年三月十五日歿  
比島ルソン島ヌエバエンバにて戦死  
満二十五歳  
陸軍伍長

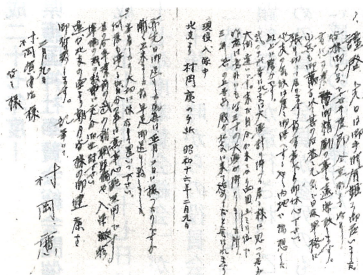
謹啓 先日は御手紙有難うございました。皆様御元気で十六年度節分豆撒きを終り、多忙な農務御精励の事と遠察致します。小兵も御蔭を以て其の後、益々元気で日夜軍務に張り切つて居ります故他事乍ら御休心下さい。北支の氣候は度々御伝へする如く内地で予想した以上に暖かです。武の手紙等は、北支は大雪計り降つて居る様に思つて居るが、大間違ひです。未だ自分が来てから四回五ミリ位で、昨夜は意外にも約三寸の大雪が降りました所、三年兵の上等兵が北支に来て始めてだと言はれます。(中略) 亦先日御送りした写真は正月二日に撮ったのですが、漸く出来ました故早速御送り致しました。到着したら大切に保存して置いて下さい。何度も伝へる如く自分の事は万事心配無用です。其の分卒業前の武の就職準備や入学受験準備の茂の教育に充分御世話下さい。遥か北支の空より朝夕皆様の御健康を御祈り致します。乱筆にて

二月九日  
村岡賀津治様  
皆々様

村 岡 廣

## 【解説】

村岡廣命は埼玉県深谷市において父賀津治、母ぶんの長男として出生。弟四人、妹一人の六人兄弟であった。村岡家後継ぎとして地元小学校卒業後、埼玉県立熊谷農学校にて農業教育を受け、卒業後は地元青年団のリーダーとして農村振興と銃後の務めをしながら農業経営に専心した。徴兵令にて第一乙種に合格し、現役兵として中国天津附近の部隊にて教育を受け、昭和十八年十二月満期除隊して家に戻ってきた。昭和十九年十一月、ふたたび召集令状が届き、甲府六三部隊に入隊後、南方戦に行く準備をしていた。弟武さんは当時中島飛行機会社に勤め東京の新宿に居たため、たびたび面会に向き、山梨の昇仙峡で色々話したそうで、家族や村の事を心から思う優しいお兄さんを記憶している。



書簡 (家族宛)

「故郷の護國神社と靖國神社より転載」

## 会費納入のお願い

『平成二十七年年度』(平成二十七年九月一日～翌年八月三十一日迄)の会費未納の方は、会費を納入頂きますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。  
※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

## 奉賛会御入会のお願い

三重県護国神社奉賛会では、次のとおり入会をお願いしています。

### 年度会費

正会員 二千元  
特別会員 一万円(個人企業団体を含む)

- ・入会者には「会員証」をお渡しします。
- ・年三回発行する奉賛会報をお送り致します。
- ・春秋例祭と万灯みたま祭にはご案内し、参列証をお送りします。
- ・総会のご案内を差し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越し頂くか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

### 「お問合わせ先」

三重県津市広明町三八七  
三重県護国神社内 奉賛会事務局  
TEL〇五九一二六一二五五九